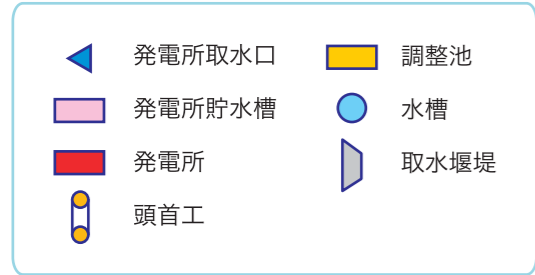
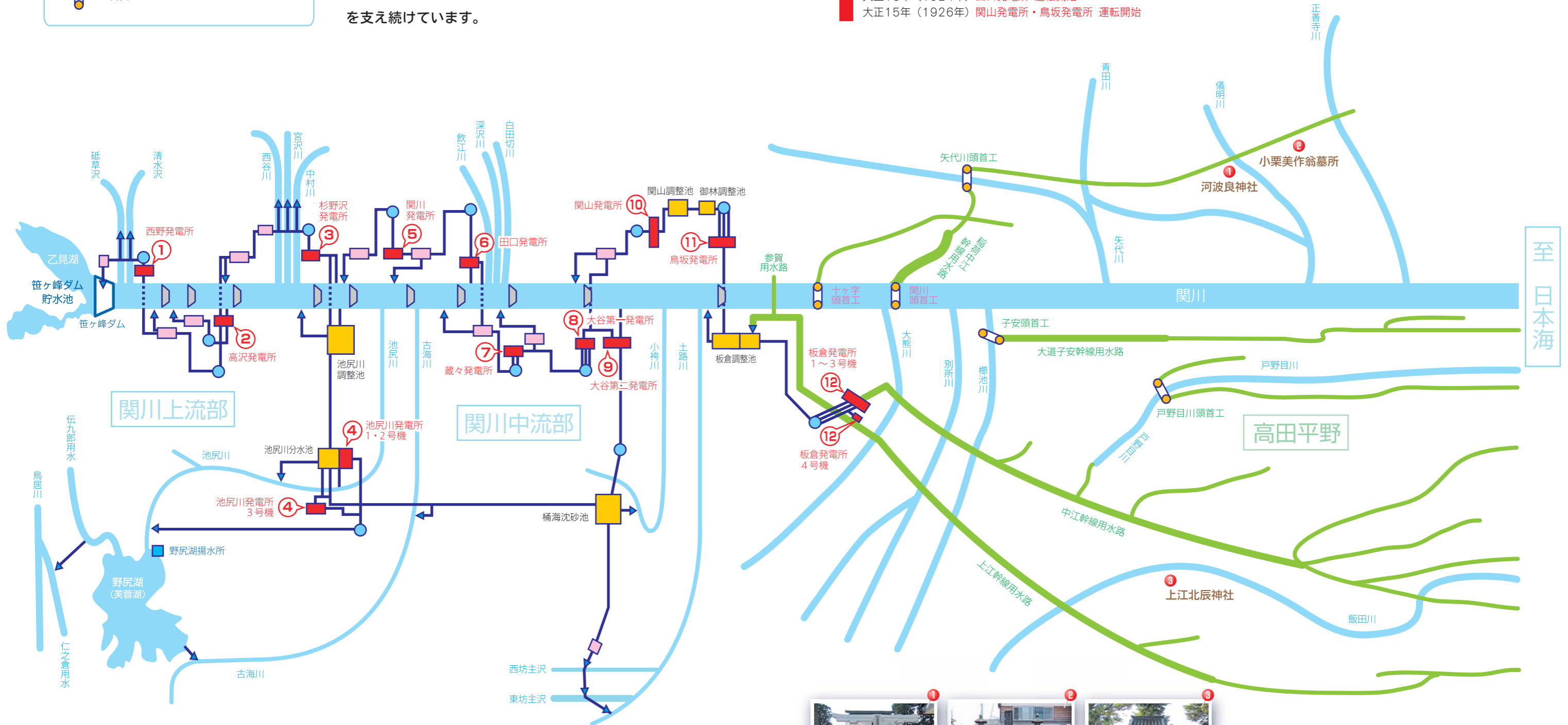


関川水系発電系統図・農業用水路図



笹ヶ峰ダムから放流された水は関川水系にある11ヶ所の発電所を順々に通過して電気をつくり、最後に上江幹線用水路や中江幹線用水路等の用水路を通して、高田平野の農業用水として無駄なく使われています。その経路は「もう一つの関川」と呼ばれ、私達の生活を支え続けています。

- [安土桃山時代]
 - 天正元年～天正20年（1573～1592年）上江用水 掘削開始
- [江戸時代]
 - 寛文12年（1672年）参賀用水 掘削開始
 - 延宝 2年（1674年）中江用水 掘削開始
 - 文化 7年（1810年）稲荷中江用水 掘削開始
- 明治39年（1906年）高沢発電所（長野県）運転開始
- 明治40年（1907年）蔵々発電所 運転開始
- 大正 6年（1917年）関川発電所 運転開始
- 大正 8年（1919年）杉野沢発電所 運転開始
- 大正 9年（1920年）大谷第一発電所 運転開始
- 大正13年（1924年）田口発電所 運転開始
- 大正15年（1926年）関山発電所・鳥坂発電所 運転開始
- 昭和 4年（1929年）笹ヶ峰貯水池 完成・西野発電所 運転開始
- 昭和 9年（1934年）池尻川発電所（長野県）運転開始
- 昭和12年（1937年）大谷第二発電所 運転開始
- 昭和14年（1939年）板倉発電所 運転開始
- 昭和29年（1951年）国営関川農業水利事業 調査開始
- 昭和58年（1983年）国営関川農業水利事業 工事完了（笹ヶ峰ダム完成）
- 平成 2年（1990年）国営関川農業水利事業附帯県営事業 工事完了



①～③写真提供：関川水系土地改良区

関川水系発電系統図No.



西野発電所

発電形式:ダム水路式
 最大出力:3,000kW
 有効落差:102.70m
 最大使用水量:3.79m³/s
 運転開始:昭和4年11月

関川水系発電系統図No.



高沢発電所(長野県)

発電形式:水路式
 最大出力:19,000kW
 有効落差:173.39m(第一)
 331.74m(第二)
 最大使用水量:8.88m³/s
 運転開始:明治39年8月

関川水系発電系統図No.



杉野沢発電所

発電形式:水路式
 最大出力:6,600kW
 有効落差:124.58m
 最大使用水量:6.58m³/s
 運転開始:大正8年5月

関川水系発電系統図No.



池尻川発電所(長野県)

発電形式:揚水式
 最大出力:2,340kW
 有効落差:74.20m
 最大使用水量:4.17m³/s
 運転開始:昭和9年4月

関川水系発電系統図No.



関川発電所

発電形式:水路式
 最大出力:2,300kW
 有効落差:53.33m
 最大使用水量:5.71m³/s
 運転開始:大正6年3月

関川水系発電系統図No.



田口発電所

発電形式:水路式
 最大出力:2,200kW
 有効落差:39.40m
 最大使用水量:6.90m³/s
 運転開始:大正13年11月

関川水系発電系統図No.



蔵々発電所

発電形式:水路式
 最大出力:1,900kW
 有効落差:32.57m
 最大使用水量:7.54m³/s
 運転開始:明治40年5月

関川水系発電系統図No.



大谷第一発電所

発電形式:水路式
 最大出力:7,000kW
 有効落差:106.10m
 最大使用水量:8.35m³/s
 運転開始:大正9年6月

関川水系発電系統図No.



大谷第二発電所

発電形式:水路式
 最大出力:13,200kW
 有効落差:227.37m
 最大使用水量:6.96m³/s
 運転開始:昭和12年2月

関川水系発電系統図No.



関山発電所

発電形式:水路式
 最大出力:1,200kW
 有効落差:10.63m
 最大使用水量:13.91m³/s
 運転開始:大正15年3月

関川水系発電系統図No.



烏坂発電所

発電形式:水路式
 最大出力:28,800kW
 有効落差:201.90m
 最大使用水量:16.69m³/s
 運転開始:大正15年12月

関川水系発電系統図No.



板倉発電所

発電形式:水路式
 最大出力:9,810kW
 有効落差:61.50m
 最大使用水量:19.90m³/s
 運転開始:昭和14年7月